東奥日報 20

# プロの視点で商品開発

## デザイナーら招き討論会

### 青森一高養 教員らヒント探る

「デザインの力」をテーマにそれぞれの活動を紹介したパネリストの4人

青森

青森市の青森第一高等養護学校（佐藤全克校長）は18日、県内で活躍するデザイナーや陶芸家ら4人を招き、「デザインの力」と題したパネルディスカッションを行った。同校の教員や福祉事業所の職員ら約60人が参加し、同校生徒による商品開発に向けてヒントを探った。（大友麻紗子）

同校は本年度、県教委の「外部人材を加えたセンター的機能強化事業」の一環で4人をアドバイザーとして招き、主に知的障害のある生徒の作業学習で商品開発に取り組む。夏休み明けから本格的に開始し、11月の学校祭で成果発表する予定。

この日は、アドバイザーを務める木村正幸さん（デザイン工房エスパス代表）、毛利清悟さん（プルデンシャル生命ライフプランナー）、姥澤大さん（キープレイス代表取締役）、安田修平さん（陶芸家）が自身の活動を紹介。「ふかうら雪人参ビーフシチュー」のパッケージデザインを手掛けた木村さんは「商品を完成させて終わりではなく、お客さんに届くまでが商品開発」と語り、毛利さんは「人は感情に訴えるものを買う。作った人の顔や苦労を紹介するだけで変わる」とアドバイスした。

この画像は当該ページに限って
東奥日報社が利用を許諾したものです。